

特定非営利活動法人ぽけっとぴーす映画上映会

2023年3月5日(日)

参加者 午前73名、午後50名 合計123名

アンケート回収午前36名、午後29名 合計65名

#### アンケートまとめ

お住まい	<input type="checkbox"/> 寒河江 21人 <input type="checkbox"/> 河北町 6人 <input type="checkbox"/> 大江町 0人 <input type="checkbox"/> 西川町 1人 <input type="checkbox"/> 朝日町 0人 <input type="checkbox"/> 天童市 6人 <input type="checkbox"/> 山形市 21人 <input type="checkbox"/> 中山町 2人 <input type="checkbox"/> 山辺町 1人 <input type="checkbox"/> その他(仙台市3人、上山市2人、酒田市1人、南陽市1人)
年齢	<input type="checkbox"/> 0~20代 7人 <input type="checkbox"/> 30代~50代 25人 <input type="checkbox"/> 60代以上 32人
職業・所属等	<input type="checkbox"/> 当事者 1 <input type="checkbox"/> 家族 10 <input type="checkbox"/> 福祉関係者 19 <input type="checkbox"/> 医療関係者 3 <input type="checkbox"/> 教育関係者 2 <input type="checkbox"/> 学生 5 <input type="checkbox"/> 主婦 14 <input type="checkbox"/> その他 12 (行政、会社員、清掃業務、事業所) ※複数回答可

1 今日の上映をどちらで知りましたか。

チラシ 21 フェイスブック 1 ホームページ 0 知人 30

その他 8 (豊岡医院、守る会、共生園、ぽけぴ、村上さん)

2 本日の映画のご感想をお聞かせください。

・障がい児者が自立(地域で生きる)するためには?をたくさんの方々に考え話し合い奮闘されている姿を見て、今まで自分の中にあった固定観念が覆された気がしました。障がいの有無に関わらず、「普通に生きる」こんな社会がもっともっと当たり前だったらいいのになと強く感じました。そして、そんな社会を自分たちで作っていかねばいけないのだとも思いました。まずは、できることから息子の心の声に耳を傾けてみたいと思います。ぽけぴの皆さんには改めて感謝感謝だなと思います。ありがとうございました。

・相談していて、何が辛いかという、制度があるにも関わらず地域に~が存在しなくて、相談者の方の今の辛さに対応できない事です。思いを形にしたいといつも思う中で”動く”ことの偉大さを改めて感じました。本当にありがとうございました。

・どんな重い障害があっても普通に生きることの大切さをとてもよく伝わりました。映画の中のご家族の方々はとても愛情の深さを感じました。

・本当に身につまされる話でした。親の思いを本気で考えてくれる方々を多く育てていくことの大切さを学びました。素晴らしい映画をありがとうございました。

・当事者の方や家族の方が希望していることを何十年も先まで考えることや地域で暮らしていくことの大変さを感じました。また、前例にないことを進めていく支援者の方の強い思いや実行力を少しでも知ることができて、とても勉強になりました。重い障害の方を支援する際に一人で支えるのではなくチームで支えることが大切だということに再認識しました。当事者や家族の方の不安や負担、また支援者の方の不安を解消するためにもチームが大切だと思いました。

- ・生きるということの難しさが少しは分かったような気がします。
- ・普通に生きることの難しさを実感しました。
- ・あまり深く考えることなく、入所という形をとりました。毎週土日に家に帰る生活を続けています。このコロナの中3年間帰宅できず、窓越し面会です。早く家に連れて帰りたい。
- ・いろんな形での福祉や介護があってもなかなか周りには知られていない難しい問題だなと思いました。
- ・たくさんの事を学ばせていただきました。ありがとうございました。続編を楽しみにしています。
- ・障がいのある人の生活は親や家族がみていくものという意識が自分の中にあったことに気づかされました。普通を追い求めることを学校教育でこれから障がいのある人と関わる立場として大切に追求していきたいです。また、その先の生活や家族兄弟の存在なども頭に置き社会で、地域で生きていく子供たちと責任をもって向き合っていきたいと改めて強く感じました。ありがとうございました。
- ・良かったです。
- ・富士山が美しかった。やさいの花に行ってみたいです。貞末さんお話聞けて良かったです。子どもを送りたい(先に亡くなってほしい)と言っていたことに対する後悔、親御心切なかったです。兄弟支援、レスパイトケアも大切ですね。花笠ほーぷ隊のドキュメンタリーも撮っていただきたいです。
- ・知らない事ばかりで、2時間勉強しっぱなしでした。少し展開が早くてついていくのが大変なところもありましたが、きっとどこも削れないシーンだったのだろうとお察しします。共助、共生、本当に本気で取り組まなければならないと思いました。”心が震えるだけで人はいきられる”清水さんの言葉震えました。
- ・素晴らしい作品でした。ありがとうございました。
- ・清水さんの”心がふるえる”という言葉胸に響きました。貞末さんお話を聞くことができよかったです。ありがとうございました。
- ・素晴らしい気付きをいただきました。「医療 く 心のつながり」なのだなと改めて感じました。ありがとうございました。石井先生にも感謝！
- ・障がい者として生きる。障がいの子をもって生きる親。様々な生き方がある中で多くの理解者や支援が必要だということを改めて感じます。上映して下さりありがとうございました。
- ・どんなに障害が重くても生まれ育った地域で暮らせるのが理想ですが、現実的に難しい場合があります。グループホームで暮らすのが理想ですが、行政は一向に取り組んでくれません。民間の有志に頼らざるを得ないが、映画のように進んでやってくれる人は少ない。医療が必要なのに民間では費用面で困難です。やはり行政運動していくことが必要だと感じました。
- ・家族の事(親、兄弟)当たり前で暮らすという事、本当に良い作品でした。もっとたくさんの人に知ってほしいです。ありがとうございました。
- ・最終的には入所という考え方そのものが、今回は考えさせられました。人として生活する場の確保が大事ですね。
- ・私も関わっている人もみんな年を取っていくので、普通に死ぬまで普通に暮らしていけるよ

うサポートしていきたいと思います。

・重く心に残りましたが、グループホームで仕事をしているので、何かより良く生活できるよう”よし！”と思いました。

・普通に生きて普通に死ぬ、私たちが当たり前に思っていたことを改めて考えることができよかった。あまり障がい者の人と関わる機会はないけれど、もしものことを考えて自分で考えてみようと思える。そんな映画でした。学校とかで上映されたら、いい勉強になると思った。

・障がい児通所施設で働いています。重心障害者が地域で暮らす意義、大切さを改めて考える機会になりました。周りを取り巻く環境の不十分さ今後大きな課題を見つけることができた映画でした。

・親御さんの想いと法人の考え、地域で普通に生きる、普通に死ぬために、それを支えるために皆さんの本音が語られていて、感動しました。グループホームの必要性や在宅医療や訪問ケアの充実など叫ばれていますが、制度も後手後手でもっと議論が必要だと感じました。心が震えるような事例を拝見でき、これからの可能性を感じました。

・「普通に生きる」も見させて頂き、今回のお話を頂いた時にすぐに見たいと思いました。障害のある方を支援させて頂く中で大切な事、自分が今何をできるかを考えさせられました。誰もが普通に死ぬ。地域で暮らす。山形もそうならいいなと思いました。ご準備ありがとうございました。

・私の周りには障がい者と言われるような方はいないので、全く実情は分かりませんでした。特に、重度障がいの子をもった親御さんの笑顔にはそこまでに至るまでは大変だったんだろうなと思いました。いかに普通である事が大切で幸せであるかわかりました。

・家族の苦しみ、大変さがよくわかる作品だった。皆さんの助けがないとやっていけないのがよくわかる。

・親の高齢化は切実な現実です。在宅介護ができない時が来た時に助けになる受け皿の必要性がわかりました。重度障害者の命の重さを考えるとウクライナで殺し合いをしている場合ではない。ミサイル1発で福祉の充実を図れるのにと思わずにいられません。

・素晴らしい映画ありがとうございました。心が震える映画です。

・大変すばらしい。見て感激しました。周りの人がチームワークで自分の考えをあのように言うことは良いことだと思います。自分の思っていることは必要だと。親の笑顔がどうしてあんなに～？子どもにとってうれしいと思います。

・早く障がいの方の生きやすい整備された社会になればいいと思います。

・とっても考えさせられました。もっと多くの方に見ていただけたらと思います。(2)

・素晴らしい映画でした。心をふるわせて、ふるえて、する仕事、立派としか言えません。自分の子のことだけ考える親です。何が他人のことへ向かわせるのか、個人として考えてみたいと思います。他を思う心と働きがつまりは自分の子に戻ってくるのかと思いました。

・ありがとうございました。酒田市でも上映会やりたいです。まだまだ一人相撲ですが。

・自分の住んでいる町内会の人々にも上映会をしていただけたらいいのになぁと思いました。

・医療者側、介護者側の立場もわかりいろいろと勉強になりました。

・軽度脳性麻痺で知的重度の11歳の息子がいます。低学年の時は今生きることに精一杯で先

のことは考えられませんでした。子供が高学年になり、息子の将来、親亡き後の事「きょうだい」の問題等考える日々です。「きょうだい」の問題は本当に早めのフォローが必要だと感じています。実際に7歳年上の娘が高校1年の時、ある日突然統合失調症を発症しました。まだまだ広がらない「きょうだい」の問題、もっともっと問題提起して欲しいです。

・とてもよかったです。ありがとうございました。

・本当にいい映画を見せていただきました。20年医療的ケアの必要な方の在宅支援に関わらせてもらい、いろんな思いが溢れました。今日の映画を機に改めてご本人の目線で働いていきたいと思えます。ありがとうございました。

・貞末監督のトークショーセットで観させていただけて、とてもよかったです。映画に込められた監督の哲学に触れ、より深めることができました。次回作も必ず観ます。ありがとうございました。運営も本当にご苦労様でした。

・亡くなった親を見るシーン、切なかった。

・大変勉強になりました。

・命はすべて平等であり、一人一人が輝かせていけるものであると感じました。だからこそ、社会に生きる私たちが互いに支え合って「普通に生きて、普通に死ぬ」という事ができる社会を作り上げていくことが大切だと感じました。映画の中であった「心震わされる」という感覚をこの映画を見て私自身実感することができました。私は将来、障がいの有無にかかわらず誰もが1日1日を輝かせ、楽しく生活することができるような社会を作り上げることができる人になりたい。そう強く思いました。

・実際の生活の中で障がい者や家族、支援者などがどう悩み生きておられるかが伝わってくる素晴らしいドキュメンタリー映画でした。観ていて思ったことは、北欧などに比べると日本では障害をもっている人に対する社会の支援がまだまだ不足していると思えます。一般の人が関心を持つことは大事な事ですが、と同時に支援している人も(当事者も含めて)周囲に応援を呼びかければ関心が深まっていくと思えます。一人暮らしの高齢者としてそんな支援の輪を私自ら作っていく一人になればと改めて思ったことでした。ありがとうございました。

・「心が震える」支援をしていきたいと思えました。

・特に医療的ケア児という言葉が最近聞くようになりしました。今日の映画でより理解を深めることができ、社会の動きに注視していきたいと思えます。関わって仕事をされている皆さんは本当にご苦労様です。

・行政の壁、いろんなサービスの壁に立ち向かい諦めてしまう事の多い日常の中でぶれる事のない、基本に沿って進んでいく熱い思いをもった人達に教えられました。まずは行動してそして世の中を変えていく、そうありたいと思えます。ありがとうございました。

・理解し、寄り添ってくださる方々がいるのは素晴らしいと思えます。

・自分らしく生きることの大切さの重要性を切に感じました。心に伝わる映画でした。普通に生きる、人として当たり前のことです。関係者の方々の熱い想いに頭が下がります。

以上